

会議記録簿

会議名	平成30年度 第6回千曲市地域公共交通網形成計画策 定分科会	受託者	特定非営利活動法人 SCOP
		作成者	牧野 透太
場所	千曲市役所更埴庁舎 講堂		
日時	平成30年12月21日(水) 10:00~11:45		

1 開会

2 分科会長あいさつ

3 会議事項

(1) 計画の体系の確認

- ・「資料1」について事務局(SCOP)より説明

《質疑》

(北島委員)

方針(2)利用がみられ、利用可能性・・・とあるが、辻褄が合わない。

(柳澤会長)

中心拠点など利用が見込まれる地域ということである。

他にご意見なければ次に移ります。

(2) 地域公共交通網整備事業(案)について

- ・「資料2」「参考資料」「追加資料」について事務局(SCOP)より説明

《質疑》

(柳澤会長)

事業者からの補足はありますか。

(小林委員)

大循環について、運転手の意見は、朝と夕方は駅と障がい者施設に向かうのがほとんど、昼間は病院などに向かう乗客が多いという意見である。

(柳澤会長)

朝は始業時刻があるもの、日中は病院などの移動に厚くした。

(SCOP)

千曲市の特徴として、温浴施設への移動が多い実績があるので対応してゆく。

(山崎委員)

調査結果を基に利用実態の提案をいただいているので、説得力がある。

(柳澤会長)

基本的にはよろしいでしょうか。

(北島委員)

駐車場に困っている企業さんなどにも調査すると需要が掘り起こせるので、実施してはどうか。

(事務局)

企業については計画の期間中に市の方で調査するような計画を盛り込んだらどうか。

(柳澤会長)

資料3の方で実施しながら調査する項目があるので、そのなかで配慮したい。

(平林委員)

住民は、大枠では反対が出ず、実際のダイヤなど具体的な内容がないと意見がでない。今後の日程的イメージはどうなっているか。

(事務局)

来月に素案を出し、2月にパブリックコメントを聞き、基本計画を持って来年度地域に入って具体的な話しをして、10月に大きく再編する時期だと考えている。

(高村委員)

朝夕の運行体系で、スクール需要対応だが、スクールは個別の運行体系で切り離すことはあるのか。

(事務局)

今までと変わらない運行体系を考えている。スクールと一般の通勤、通学をマストで考えている。

(斉藤委員)

大田原線、姨捨線に移動需要の線がないがフィーダー化するのか、残すのかの基準はなにか。

(事務局)

日中の需要の大田原線、姨捨線は調査できていないが、以前の調査では移動実績があるので、この2線は残していきたい。

(柳澤会長)

他にご意見がなければ、事務局案にて進めさせていただきます。

(3) 利用環境整備・利便性向上事業について

- ・「資料3」について事務局 (SCOP) より説明

《質疑》

(北島委員)

P1、市民のために運行整備とあるが、後に観光客やインバウンドの内容があるので、最初に市民に限定するとおかしい。観光客やインバウンドも含めた記述にしたらどうか

3行目、千曲市が有する資源とあるが、物的なものか観光地なのか、なにを想定した資源なのか。

P5、車両の更新と整備について、低床車をめざすはいいが、バスの大きさについても見直す記述がほしい。

(柳澤会長)

P1, には市民に必要な移動は、旅行者やインバウンドも含まれる文言を入れる。

(事務局)

資源とは、バスや観光資源を含むということ。

車両については、幹線軸は大型も必要になるなど、考慮し書きぶりを変える。

小型車では低床の対応ができるかなど、車両の大きさとバリアフリー対応はいかがか。

(齊藤委員)

バリアフリーは必要だが、サイズ感より、バスの乗り方が統一できる方が重要だと考える。

今は、車両によって乗り方が違う。

現在、姨捨に登っている車両は山に登るのに適していないので、故障が多い。地域に合った車両が必要である。

(柳澤会長)

ルールで不都合があった事例が具体的にあれば、聞かせていただきたい。

(齊藤委員)

ヘビーユーザーは良いが、来訪者、インバウンドなど乗り方を知らない人はバスを敬遠する。

(柳澤会長)

乗り方教室など対策はないか。

(齊藤委員)

バスの乗り方などの利用促進は永遠の課題である。

(事務局)

時刻表に前払いと記述するとかで対応できないか。

千曲市の時刻表は書いてある。

前乗り、前降り、後払いで統一している。

(柳澤会長)

姨捨での車の問題とは何か。

(齊藤委員)

サイズではなく、車自体の特性の問題である。

「ぐるりん」程度のサイズで申請しているが、ジャンボタクシーサイズでないと入りにくい道もある。

(柳澤会長)

車両の問題はフィーダーでも発生する。

(久保委員)

低床のバスも良いが、山地域や雪の時は低床は走れなくなる。姨捨ではどうかなと思う。

コースターだとステップが高くて乗れない者がいるので、その点では小さい車両が良いが、一方で、乗客が多いときはコースターのような大きい車両が必要である。都度、車両を変えるとか、運行の途中で小さい車に変えるというのはできない。

(柳澤会長)

積雪があると、低床車は下をすってしまうということか。

(久保委員)

その通りである。

(山崎委員)

循環線の東部線では、山間部がないのでサイズの的には今のサイズでいい。

中型になった場合に、通れるかドライバーから心配が出ている。

(事務局)

多くの利用者が見込める幹線には、大きいバスとするが、来年度は大循環と東部線の買い換えを考えている、その他の路線では適材適所、故障なども踏まえて機種を検討したい。

(高村委員)

バスは乗客は受け身で待っているしかないが、運転手に待っている人がいることが分かるような通信手段などがバス停にあると、安全な場所で待っていただけるので、考えて欲しい。

キャッシュレスへの対応も願います。

(事務局)

全国的には電子掲示板で表示されるバス停があり、視野に入れて検討したいが、今は技術がないので対応できないが、将来的な内容として記述したい。

キャッシュレス対応は、要望も多く、乗換対応などはやりやすいので、検討したい。

(玉井委員)

長野市、須坂市では今年の10月に対応している。JRが2020年までにSUICAと地方カードを融合したカードを開発すると発表した。バスとしては、まずはICカード化だが、県としてもワーキンググループを作り、検討している。千曲市としても検討して欲しい。

(井藤委員)

SUICAだと首都圏から入るシステムなので、10カードが使いやすい。費用の面が問題となる。

QRコードでの決済も中国人を中心に普及しているが、カード会社への手数料がいらぬものの、バスでは決済スピードが遅いので、タクシーなどで検討したらよい。

(玉井委員)

情報発信については、県としてもICTで連携したい。

P5以降の内容は、5年間で順次取り組みできるものから実施するというのか、どれかをピックアップして取り組むのか。

これまで千曲市で実施してきた実績から、課題についての考察があれば、ご説明いただきたい。

(事務局)

次の分科会で、中期長期の振り分けを行ないますので、そこで検討します。

3回目の分科会で千曲市の公共交通総合連携計画について検証した。スタンプカードと循環バスの回数券との交換事業などは構築したが、交換が増えなかったことを踏まえて、使いやすい制度にしたいと、今回盛り込んだ。デマンドについては、3月以来、デマンド通信を発行しており、利用促進に効果があった。など、いくつか事例がある。

(玉井委員)

P5(2)、住民が主体となった環境整備では、県の元気づくり資金を使って、見やすいバス停に工夫したなどの活動があり、情報発信につながっているのではないかと。

パークアンドライドは、どう市民に使ってもらうかを検討してほしい。

P7、バスの位置情報の発信は、長野市、松本市で信州ナビの中で発信するよう構築中なので、参考にしてほしい。

(2)、飯綱町の交通会議で出ていた、ケアマネと連携して行なう活動のような県外の事例などをSCOPで持っていないですか。

(SCOP)

飯綱町とは狙いが異なるが、高齢福祉課では、高齢者に乗ってもらうのに、使う体験をしてもらうツアーをふれあいサロンで企画する取り組みをしたかどうかという話があった。

飯綱町では、バスに乗りにくい高齢者をサポートする、荷物を持つなどの取り組みができないかと検討している段階である。

(玉井委員)

飯綱町、朝日村などはケアマネさんに補助をお願いして、バスに乗れるかどうかを確認するようなことをしており、こういったことも今後は必要となる。

(事務局)

ベンチを置いて欲しいとの要望はあるが、市で設置すると撤収も市で行なう必要がでてくる。高山村のように、地域住民が協力して設置する仕組みで、維持管理も含めてできないかという趣旨で記述しています。

(井藤委員)

P12の収集データで、長電バス、篠ノ井線のデータは取る必要はないか。

タクシーは「語り部タクシー」の出動実績も取る必要はないか。

(事務局)

長電バスはデータを収集できるので、入れたい。JRさんからのデータは難しいが、聞いてみたい。タクシーは「語り部ベタクシー」の実績は入手可能なので、入れたい。

(平林委員)

イレギュラー地域については、利用者が少ないのが現状で、評価検証時に、利用時間がこれで良いのか調査して欲しい。予約運行ができれば、必要以上に移動しないので、便数を増やせるのではないかと、検討して欲しい。

デマンドは運賃が高い、路線と同じ値段にできないか。

(事務局)

現状、千曲市では定時、定路線で運行している。予約運行は難しい。デマンドタクシーは予約型なので、実施する中でデマンドで対応できるのか検証したい。

時間で住み分けして並行で運行しているが、デマンドは早く着けるという利点があるので、400円と高いがこれで維持したい。

(斉藤委員)

利用環境整備で、新規顧客を獲得するには、車両の更新と整備、バス停の整備、交通案内の整備が重要である。車両のルールを統一し、行き先表示に経由地を表示する、ベンチだけでなくバス停のポール自体の更新をする、なども含めて欲しい。バス停は停留所名と路線名と時刻しか書かれていないため、どこに行けるのか分からないので、表示内容も更新したい。特に、駅でのルートや行き先表示については都会の事例を参考にして、充実した案内を整備してほしい。

(柳澤会長)

このバスに乗ったら目的地に行けるということが分かりやすい方法はないか。

(斉藤委員)

長電バスの須坂では、行き先に病院のマークを付けるような工夫をしている。

(柳澤会長)

持ち帰って考えた意見はいつまでに出してもらえばいいのか。

(事務局)

次回が年明けなので、年明け10日までにいただければ間に合う。

(井藤委員)

バスを待っているときにストレスを感じないために、今バスがどこにいるか出ていればいいのか、考えて欲しい(バスロケーションシステム)。

(事務局)

いろんなシステムが出ているが、ハードが高くなるので、簡単にできるスマホで見れるような仕組みから検討していきたい。

(北島委員)

フィーダーで乗換が発生するが、雨がしのげるような視点がほしい。

(事務局)

上屋の部分は文言を入れたい。

(事務局)

次回は目標設定の素案を提示する。

ご意見があれば、1月10日までにご連絡をお願いします。

(柳澤会長)

以上で議事を終了する。

4 その他

次回は、1月22日に予定する。

5 閉会

以上